

平成 28 年度幼児教育の推進体制構築事業成果報告書（概要）

1. 調査研究テーマ

- (ア) 「幼児教育アドバイザー」育成・配置に関する調査研究
- (ウ) 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

2. 平成 28 年度に実施した主な調査研究内容

(1) アドバイザー訪問施設数（平成 29 年 3 月 31 日時点）：

幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校
2/10 園			0 園			2/3 園			1/24 所		0 園		0 園		0/17 校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0 園	2/8 園	0/2 園	0 園	0 園	0 園	0 園	2/2 園	0/1 園	1/14 所	0/10 所	0 園	0 園	0 園	0 園	

※アドバイザー配置人数：4人

※アドバイザーの最終経歴：公立幼稚園長経験者 1 名
 保育所指導主事経験者 1 名
 前教育長 1 名
 現大学准教授 1 名

(2) センターの設置：

- ・設置年度：設置せず
- ・設置形態：-

(3) その他幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

- ・保育支援員派遣事業

3. 成果

(1) アウトプット

研修を目的・課題別に整理し実施する中で、成果と課題を分析し、より効果的に行うための内容や実施法を取り組みの中で系統立てて考える。

公立私立幼稚園、公立認定こども園、公立保育所と施設の違う教職員が公開保育参観で保育場を共有した後の話し合いや事例検討で議論を行うことで、保育のあり方の共通認識を図り、相互理解を深める。

- ・アプローチカリキュラム作りに向けての研修
 - 公開保育参観 4回
 - アプローチカリキュラムに向けてのカンファレンス 7回
- ・学校訪問公開保育研修 9回
- ・認定こども園検討委員会 6回
- ・園（所）内研修検討 随時実施
- ・幼児理解・課題別研修 5回
- ・新規採用教員、若年研修 9回
- ・保育支援員派遣事業 158回

(2) アウトカム

- ・幼稚園、認定こども園、保育所の保育の方法や見方に違いがあっても研修を通して共通の観
点に立ち、同じ公開保育を見て議論をしたり、事例検討を繰り返したりする中で、互いの保
育の捉えや視点が少しずつ近づき相互理解が深まった。
- ・研修グループの工夫や課題別研修、DVDの活用など、園(所)内研修のあり方を見直したこと
は、施設の実態に応じた効果的な研修方法を考えるきっかけになった。
- ・新規採用研修における公開保育参観は、若年教員が多く在籍する園の職員にとってベテラン
教員の保育(かかわり)に触れる場となり、自分の保育の場面での適切な保育実践力を養う
ことにつながっている。特に個々の幼児に応じた援助の仕方や発達にふさわしい環境構成を
学び、幼児理解を深めることができた。
- ・保育支援員派遣事業では、保育所内で互いの保育を見合う機会となり、参観後のカンファレ
ンスでも回を重ねるごとに幼児理解や保育の見方に深まりを感じる。また、個々の保育士に
応じた指導や対応を行うことで、保育以外の悩みや立場に応じた、充実した支援が行えてい
る。

4. 上記を含めた、平成 29 年度の実施計画

- ・アプローチカリキュラム作成にむけての研修
公開保育研修会 4回
事例検討の話し合い 8回実施(6月～1月)
- ・公立幼稚園・公立こども園新規採用教員研修 年11回実施(5月～2月)
公開保育参観とカンファレンスによる新規採用教員の研修
- ・こども園相互理解、認定こども園検討委員会 年間を通して随時(4月～3月)
こども園の公開保育参観と運営上の課題や保育のあり方などについての協議
- ・課題別研修会 年3～5回実施
担当年齢別のグループで行い、担当年齢児の課題に沿った研修
課題を克服し、スキルアップにつながる研修
- ・中堅職員研修会 2回実施
キャリアにあわせた、職員(公立幼稚園、公立保育所、公立認定こども園)としての資質
向上につながる研修
- ・新規採用保育士研修 現場指導 7回 研修会 1回
公立保育所における新規採用職員に向けての研修
- ・若年教員研修 現場指導 2回 研修会 1回
公立幼稚園、公立こども園における若年職員に向けての研修
- ・園内研修指導 随時
各園、所における効果的な園内研修の方法(研修時間、参加者を含め)を検討
研修を進めるリーダーの育成